

ローカル・ブルー・オーシャン・ビジョン推進事業  
令和3年度から令和7年度の実施概要

# 採択自治体一覧 (1/3)

年度	自治体	事業の目的	頁
R3	大阪府	散乱ごみの発生抑制・回収に向け、付加価値のある美化活動や回収ごみの再生（アップサイクル）等、より多くの人々が参加したくなる美化活動モデルを構築する。給水スポットの設置やマイボトルへのサービス対応を推進し、快適にマイボトルを利用できる地域を実現する。	5
	兵庫県	学生向けの講義イベントの実施により、環境問題の自分事化とプラスチック代替素材の認知拡大により、海洋プラスチックごみ問題の解決策となり得る生分解性プラスチック等の代替素材の普及を目指す。	6
	和歌山市	海洋ごみ問題の解決と観光の両立を目指し、観光客を含む多くの人々が海洋ごみ回収に積極的に参加する社会の実現を目指す。	7
	真庭市	行政、真庭商工会、（一社）真庭観光局が連携し、市内の多くの飲食店、観光施設でマイボトルやリユース食器等の使用を推奨することで、ワンウェイ容器の使用を抑制し、モノを使い捨てしない脱炭素型ライフスタイルへの転換を目指す。	8
	山口県	海岸清掃活動で回収したポリタンクを買い物カゴにアップサイクルし、県内のスーパーで利用する体制を構築し、買い物かごを環境教育の教材にも活用することで、海岸清掃活動の活性化と海ごみ問題に関する普及啓発を推進する。	9
R4	島牧村	イベント参加者及びコミュニティに対して、プラスチックごみからのアップサイクル品作成や地元出身のシンガーソングライターによるオリジナル音楽によって、海ごみ問題への行動変容を促す。これらの取組をマスメディア等の協力のもと広く発信力のあるプロジェクトを目指す。	11
	弘前市	弁当容器の開発販売事業者や地元大学生協との連携により、エコ容器の流通、回収、リサイクルシステムを地域イベント等へ転用することで、地域のリサイクルシステムを構築し、プラスチックごみの削減を目指す。地元飲食店のテイクアウトでの活用に向け連携を広げ、持続性のある流通を目指す。	12
	大阪府	トラック協会と連携体制を構築し、ドライバーが活用しやすいトラック運転室内搭載ごみ箱の配布や、運送事業者・ドライバーへの普及啓発事業を実施し、一部のトラックドライバーによるポイ捨て対策に取り組む。	13
	門真市	自治体と企業が協働して地域のプラスチックごみの発生抑制を進めるプラットフォームを組成し、産学官の多様な関係者が参画した実効性のある「プラスチック削減方針」を策定する等、市民の行動変容に繋がる取り組みを推進する。併せて、本事業の成功事例をベースモデルとして全国の自治体と共有することで、自治体間の連携の輪を広げる。	14
	和歌山市	人々の海洋ごみに対する意識を変革する体験デザインの創出をめざし、アート船の制作プロジェクトと教育プロジェクトを実施。一連の様子をマスメディアで発信。昨年度の成果も活用しながらコンテンツの拡張を図る。	15
	岡山県	海岸漂着物等の回収困難地点におけるごみ搬出方法として、ドローンの活用を提案し、搬出方法の選択肢を増やすことを目指す実証実験を行う。また、ドローンによる実証実験の話題性を活かした情報発信・啓発事業を実施し、海洋ごみ問題の解決方策の提案と普及啓発を同時達成を目指す。	16
広島県	秋の海ごみゼロウィークに併せて、百貨店全館を海ごみ啓発・情報発信基地として「おしゃれ」「暮らし」「学び」等をテーマに普及啓発事業を展開。エシカル商品の提供や情報発信、環境学習等を多様な市民が集う場で実施することで、海ごみについての理解促進や行動変容の機会を創出する。	17	

# 採択自治体一覧 (2/3)

年度	自治体	事業の目的	頁
R5	度会町	小・中学校、事業所、各種団体など、多方面から分別、リサイクル、海ごみ問題について協力を促す。内陸部である度会町であるが、海ごみ問題を自分事として意識を持ち、行動を起こすことで、ごみ流出を防ぐことを目的とする。	19
	京都府	PETボトルに焦点を当て、ポイ捨て、ひいては海洋へも流出している現状について知っていただき、さらに西陣の織物へのアップサイクルを通して、資源としての意識付けを図る。	20
	和歌山市	豊かな海づくりに向けた取組を全国的に波及させることを目標に、「ウミプラー」を用いた教育コンテンツを他自治体へ横展開を進めるため、試験的に堺市へ横展開し効果検証を行うこと。	21
	広島県①	海洋ごみ問題を可視化させ、発生源と漂着エリア双方向から問題を考える取組の実施により、市民・県民による海洋ごみ削減に向けた自発性や当事者意識を醸成させるとともに、広島の実海へのファンづくりを行う。	22
	広島県②	海洋プラスチック問題へのアプローチに際して、身近にある「スポーツ」の要素を加えることで間口を広げ、楽しみながら意識醸成するとともに、スポーツウェア等の回収・アップサイクルやペットボトルの3分別回収の促進等により、取組を可視化することで、取組への付加価値を高め、さらなる機運醸成を図る。	23
	今治市	地域住民が自主的に活動を行っている、湊・大新田アダプトプログラム事業に事業者（今治商工会議所）・市民・中学校が参加し、持続可能な海岸清掃活動を確立する。	24
	吉富町	地域の将来を担う“今のこども達”へWSを行い、海洋ごみを収集する意味と意義から脱炭素意識を高めるとともに、小学生の学びを通じて、大人の行動変容に繋げることで、町が掲げる「脱炭素日本一」の実現を目指す。	25
R6	静岡市	静岡市の地場産業であるプラモデルを題材に、漂着PETボトルをリサイクルしたプラモデルの組立授業（教育プログラム）を制作する。この授業を様々な地域に展開していくことで、全国で海洋プラスチックごみを生み出さない意識付けを図るとともに、海岸清掃等の実践行動を促す。	27
	大台町	ゲーム感覚で水上のごみ拾いを楽しめるプラスチックフィッシング大会を通じて、若い世代を中心に海洋ごみ問題や清流宮川への関心を高め、宮川流域圏全体で清流を守っていく機運を醸成する。	28
	度会町	小・中学校、事業所、各種団体など、多方面から分別、リサイクル、海ごみ問題について協力を促す。内陸部である度会町から、海ごみ問題を自分事として意識を持ち、行動を起こすことで、ごみ流出を防ぐことを目的とする。	29
	兵庫県	兵庫県ではプラスチックの水平リサイクルの観点から（株）エフピコと普及啓発等の取組を進めている。本事業では小野市内にて、小学生が考案した啓発デザインを施した食品トレーを製造、小売店で利用・回収し、リサイクルを市内選別工場等で実施することで、食品トレーの域内循環を行う。本事業をモデルケースとして県内市町へ横展開を図る。脱炭素への貢献も留意しつつ、食品トレーにとどまらず、プラスチックをはじめとするあらゆる廃棄物を資源として循環する意識を高め、海洋ごみの発生抑制へとつなげる。	30
	生駒市 ・対馬市	都市部・内陸部における海洋ごみに関するオーシャンブラインドネスの解消と海洋リテラシーの向上。	31

年度	自治体	事業の目的	頁
R6	今治市	令和5年度に実施した事業の湊・大新田アダプト・プログラムの横展開として、今治市を代表する海岸である織田ヶ浜海岸(R5環境省自然共生サイト認定)、唐子浜海岸に落とし込み、下記の事業により海洋ごみ等問題を考える市民意識の向上を図る。	32
	唐津市	ビーチクリーンや海中ごみの収集加え海草をはじめとした種苗の投入などのイベントを通じて、市民や小中高校生による海洋ごみ問題やごみを与える生物多様性への影響について考える機会を創出する。また、「(仮称)世界海洋プラスチックプランニングセンター」(令和8年度開業予定)に向けて市内の海洋ごみに対する自発性や当事者意識の醸成を促進させる。	33
R7	東松島市	海洋ごみについて、より一層の対策を進めていくために、企業や研究機関の先進技術や知見を活用し、アップサイクルしたものを活用し、地域住民の理解促進を図り、海洋ごみをはじめとした、廃棄物の削減や環境意識の向上へ繋げていく。	35
	静岡市	漂着ペットボトルを一部再利用したプラモデルの組み立て体験を通じ、海洋プラスチック問題について学習する授業パッケージを制作する。この授業を全国に展開し、海洋プラスチック問題の解決に向けた意識の向上及び問題の「自分ごと」化による行動変容を図る。	36
	下田市	下田市グローバルCITYプロジェクトの一環として、ビーチ環境保全を推進する様々な取組を(株)シップスや上智大学といった市外団体と連携し行っているが、それぞれの企業どうしのつながりが無い。下田市をハブとして企業同士の連携を図り、企業だけでなく地域住民から観光客まで参画する基盤を作り、海洋環境保全プロジェクトを推進する。	37
	度会町	内陸部である当町であっても、海ごみ問題を他人事ではなく自分事として位置づけ、小・中学校、保育所など教育分野を主として分別・リサイクルへの協力を促し、家庭、地域で行動を起こすことを目的とする。	38
	土佐市	スーパーマーケットを営む(株)サンシャインチェーン本部、簡易食品容器製造販売メーカーの(株)エフピコと共同で、市内の小学生が考えたリサイクル推進の「かんきょう4コマまんが」を印刷した食品トレーを使用することで、まずは食品トレーを契機に小学校を起点に市民を巻き込んだ循環型リサイクルを推進し、資源の保全、リサイクルへの意識を高め、海洋ごみの発生抑制に貢献していく。	39
	竹富町	世界自然遺産に登録されている西表島にて島民と島を訪れる観光者をモデルケースとして、企業連携を図った新たな観光・教育・経済のモデルを実施・検証する。	40

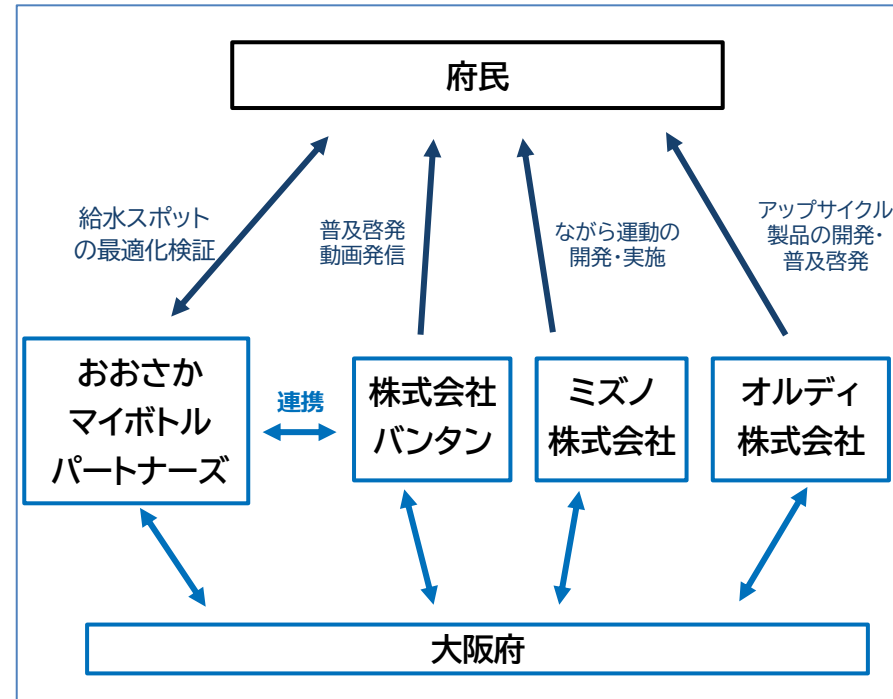
# 令和3年度採択自治体の取組

## 取組の目的

- 対象 府民
- 目的 散乱ごみの発生抑制・回収に向け、付加価値のある美化活動や回収ごみの再生(アップサイクル)等、より多くの人々が参加したくなる美化活動モデルを構築する。給水スポットの設置やマイボトルへのサービス対応を推進し、快適にマイボトルを利用できる地域を実現する。

## 取組の概要

- 清掃活動 ごみ拾いしながらストレッチなどができる運動メニューを開発(ながら運動)し、紹介リーフレットを作成後、美化活動でながら運動を実施。
- リサイクル ペットボトルキャップを美化活動等で回収し、家庭用ごみ箱へアップサイクル。ごみ箱は美化活動参加者等に還元。
- 発生抑制・普及啓発 給水スポットを効果的な場所に設置するために、アンケート等を実施。学生による企画コンペを実施し、給水機やマイボトルに関する普及啓発動画を制作。



## 成果と今後の展開

- 成果 美化活動への興味や参加意欲の向上  
効果的な給水機の設置場所の把握  
企画コンペに参加した学生の意識向上
- 今後の展開 ながら運動やアップサイクル製品の周知  
ニーズの高い所への給水スポット設置の働きかけ



## 取組の目的

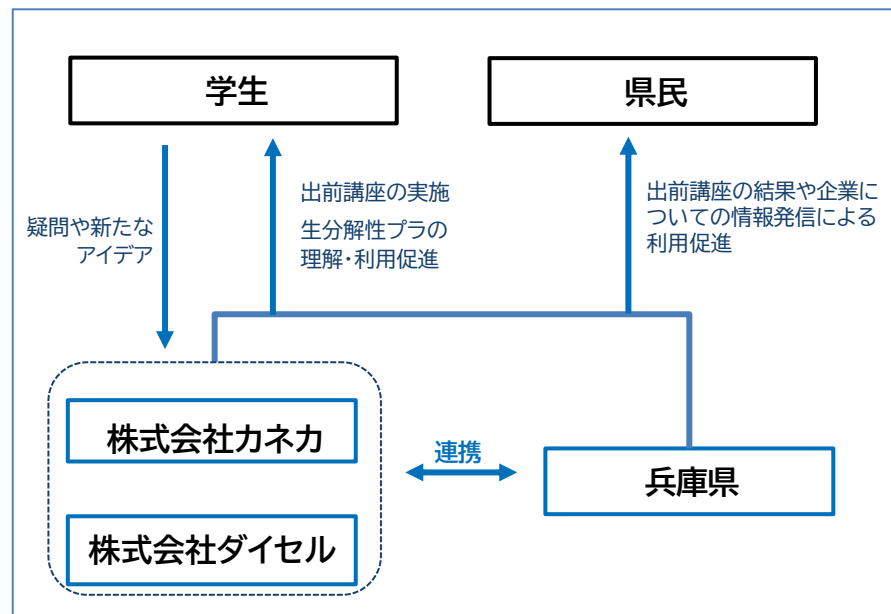
- 対象 県民、学生(大学生・高校生)
- 目的 学生向けの講義イベントの実施により、環境問題の自分事化とプラスチック代替素材の認知拡大により、海洋プラスチックごみ問題の解決策となり得る生分解性プラスチック等の代替素材の普及を目指す。

## 取組の概要

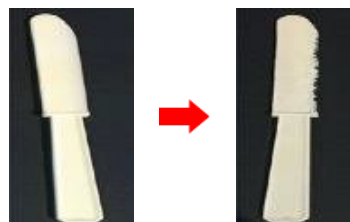
- 発生抑制・普及啓発 生分解性プラスチックの理解促進と代替素材としての活用促進を目指し、高校生・大学生を対象とした講座(全2回)を開催。  
第1回講座では企業等が講師となり、海洋プラスチックごみや代替素材に関する講義後、グループワークを実施。第2回講座では、第1回講座で学んだ内容や講座の間に調べた内容を持ち寄ってグループ発表を実施。

## 成果と今後の展開

- 成果 行政・企業・学生が直接対話できる機会の提供。  
課題の共有や、代替素材の利用促進に向けた新しいアイデアの創出。
- 今後の展開 学生向け普及啓発事業等の実施。



CAFBLO™で作られたコップとスプーン  
(株式会社ダイセル)



Green Planet™製ナイフの  
海中での生分解の様子(株式会社カネカ)



## 取組の目的

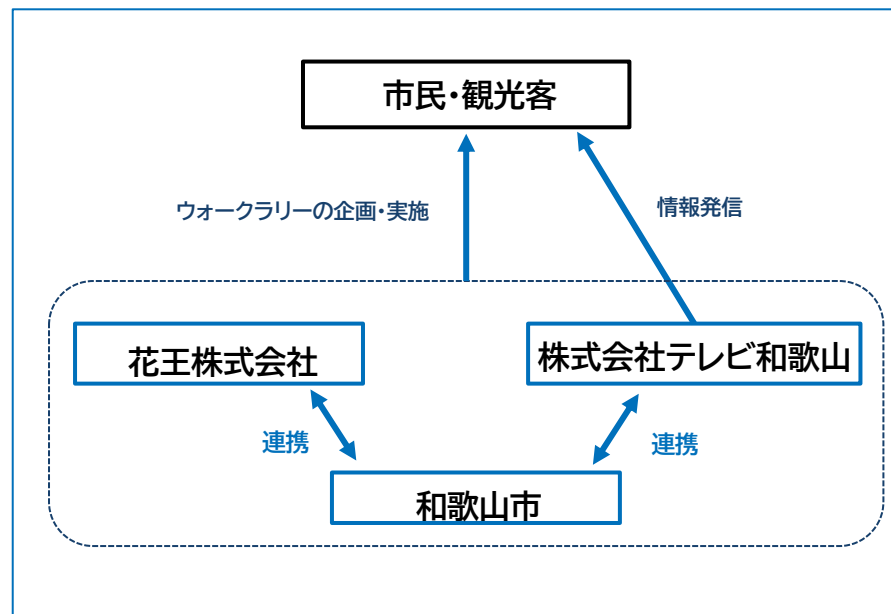
- 対象 市民・友ヶ島に訪れた観光客
- 目的 海洋ごみ問題の解決と観光の両立を目指し、観光客を含む多くの人々が海洋ごみ回収に積極的に参加する社会の実現を目指す。

## 取組の概要

- 清掃活動 海洋ごみを寂しがりやの「ウミプラー」に擬人化し、無人島の友ヶ島をRPGの舞台に見立てた世界観を構築。ナツジの手法を取り入れた、ゲーム感覚で楽しめる島内探検ウォークラリー「ウミプラー」(島内の観光ポイント巡りと海岸清掃)を開催。
- 普及啓発 島内探検ウォークラリーでは、「ウミプラー」と共に海洋ごみの漂着状況や環境への影響について学習、自分事化を図る普及啓発を実施。

## 成果と今後の展開

- 成果 ナツジを活用する事で、海洋ごみ問題の自分事化やゲーム感覚で楽しみながら海洋ごみを回収するプログラムを構築。
- 今後の展開 友ヶ島探検ウォークラリー「ウミプラー」の継続実施と「ウミプラー」というコンテンツの横展開。



## 取組の目的

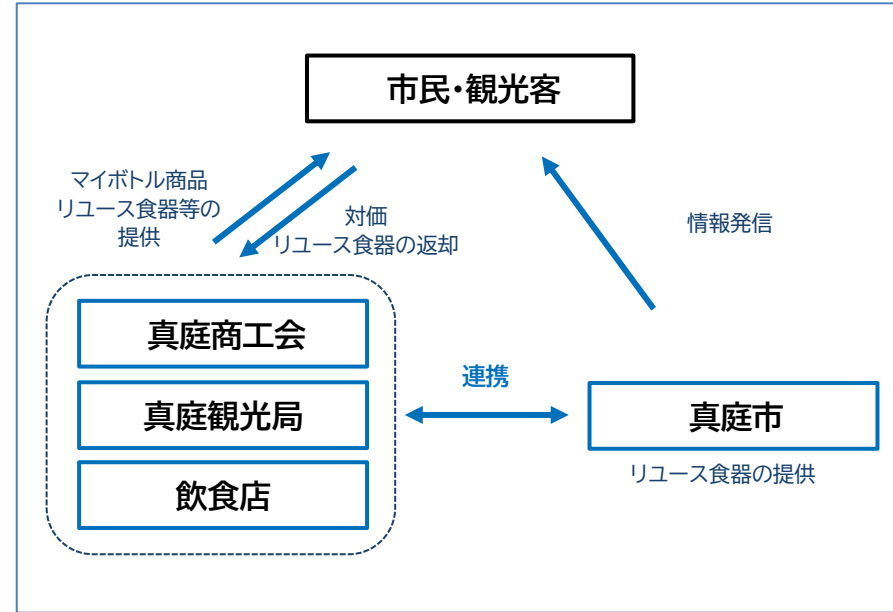
- 対象 市民・観光客
- 目的 行政、真庭商工会、(一社)真庭観光局が連携し、市内の多くの飲食店、観光施設でマイボトルやリユース食器等の使用を推奨することで、ワンウェイ容器の使用を抑制し、モノを使い捨てしない脱炭素型ライフスタイルへの転換を目指す。

## 取組の概要

- 発生抑制 マイボトル・マイ容器への商品提供やリユース食器の利用等を実施する飲食店をエコテイクアウト実践店として募集、飲食店におけるワンウェイ容器の使用を抑制。リユース食器を使用したテイクアウト商品の提供及び使い捨てプラスチック削減の実証試験を実施。
- 普及啓発 店頭でのチラシ、タペストリーによる情報発信を通じて、来店者および市民への普及啓発を継続。

## 成果と今後の展開

- 成果 市内飲食店・事業所がエコテイクアウト事業に参画。実証試験では使い捨てプラスチックの使用率の削減を確認、参加店舗の意識や気づきを共有。
- 今後の展開 参加店舗が自走していけるようにサポートを継続。



## 取組の目的

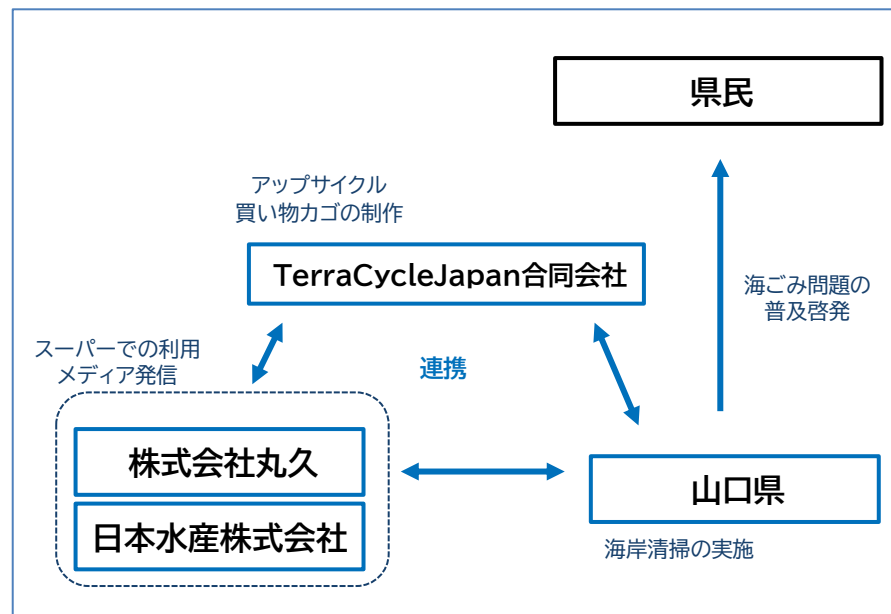
- 対象 県民
- 目的 海岸清掃活動で回収したポリタンクを買い物カゴにアップサイクルし、県内のスーパーで利用する体制を構築し、買い物かごを環境教育の教材にも活用することで、海岸清掃活動の活性化と海ごみ問題に関する普及啓発を推進する。

## 取組の概要

- 清掃活動 「ONE FOR OCEAN」を合言葉に、海岸清掃を実施。原料となる青色ポリタンクを回収。
- リサイクル 回収した青色ポリタンクを原料に買い物カゴにアップサイクルし、県内の一部スーパーへ導入。
- 発生抑制・普及啓発 回収したポリタンクにメッセージを記入し展示。ドローンによる清掃前後の比較映像の撮影。アップサイクル買い物カゴのお披露目会。

## 成果と今後の展開

- 成果 企業・市町との連携体制の強化。海岸清掃活動からアップサイクル製品の利用まで実施したことによる、県民の海洋プラスチックごみ問題への関心・意識の向上。
- 今後の展開 参画市町や連携企業を拡大しながら事業を継続。成果を活用した環境教育や消費者教育を実施。



## 令和4年度採択自治体の取組

## 取組の目的

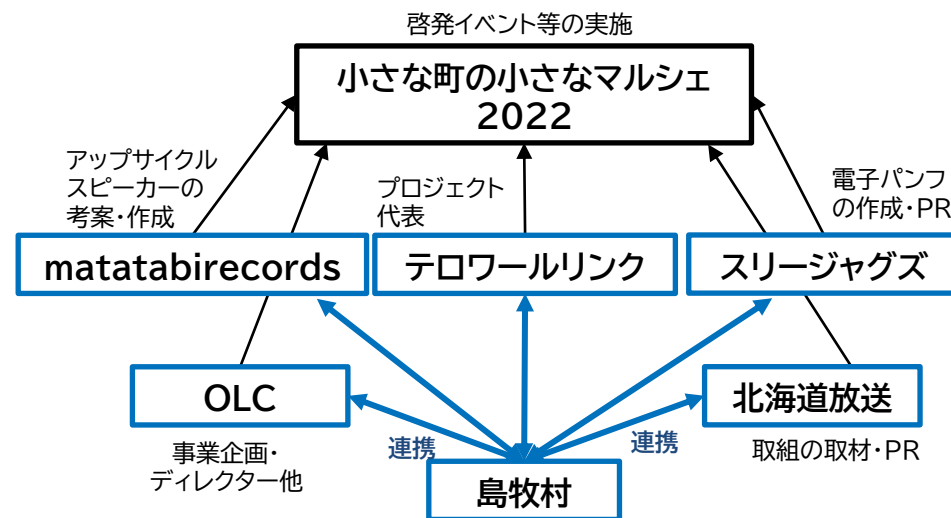
- **対象** 村民及び村外から訪れるイベント参加者
- **目的** イベント参加者及びコミュニティに対して、プラスチックごみからのアップサイクル品作成や地元出身のシンガーソングライターによるオリジナル音楽によって、海ごみ問題への行動変容を促す。これらの取組をマスメディア等の協力のもと広く発信力のあるプロジェクトを目指す。

## 取組の概要

- **リサイクル** 海洋ごみ製のアートスピーカー作成。
- **普及啓発** 「小さな町の小さなマルシェ2022」での普及啓発(スピーカーから海へ向けた音楽とメッセージの発信等)、SNS等を活用した取組PR。
- **清掃活動他** 一斉ビーチクリーン、地元出身者による地域へのメッセージ・取組の対外発信。

## 成果と今後の展開

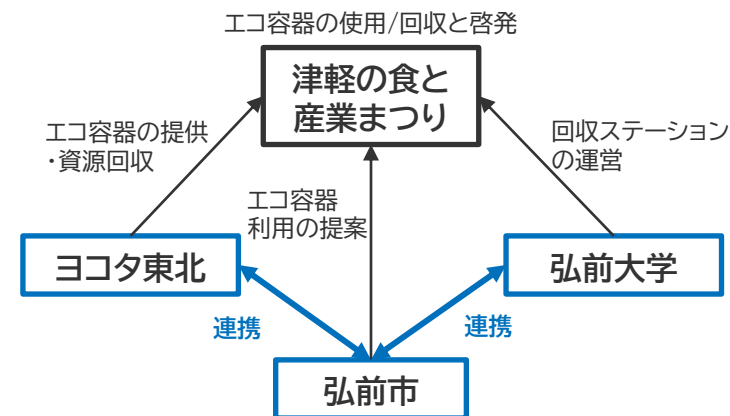
- **成果** 「小さな町の小さなマルシェ」によるイベント実施。海洋ごみを用いたアート作品の制作と活用。
- **今後の展開** アップサイクル品による啓発事業の展開や関係人口の創出。



## 取組の目的

■対象 市内の事業者・イベント参加者(市民及び観光客)

■目的 弁当容器の開発販売事業者や地元大学生協との連携により、エコ容器の流通、回収、リサイクルシステムを地域イベント等へ転用することで、地域のリサイクルシステムを構築し、プラスチックごみの削減を目指す。地元飲食店のテイクアウトでの活用に向け連携を広げ、持続性のある流通を目指す。



## 取組の概要

- 発生抑制 大規模イベントでのエコ容器使用とエコ容器回収・リサイクルの試行。
- 普及啓発 イベント内リサイクルステーションでの弘前大学生等による取組PR(声掛け、チラシ配布等)。
- その他 イベント参加者・出店事業者・運営に携わった学生へのアンケート。



## 成果と今後の展開

- 成果 大規模イベントにおけるプラスチックごみの大幅削減。エコ容器のリサイクルシステム構築に向けた需要の創出。
- 今後の展開 エコ容器の継続使用に向けた事業者等との協力体制の構築。学生中心の情報発信によるPR・普及啓発。



## 取組の目的

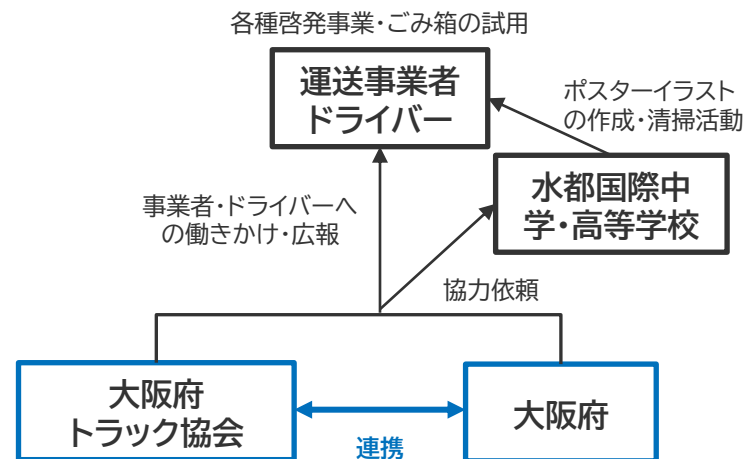
- 対象 運送事業者、トラックドライバー、中・高校生
- 目的 トラック協会と連携体制を構築し、ドライバーが活用しやすいトラック運転室内搭載ごみ箱の配布や、運送事業者・ドライバーへの普及啓発事業を実施し、一部のトラックドライバーによるポイ捨て対策に取り組む。

## 取組の概要

- 発生抑制 ドライバーへのアンケート・トラック運転室内に搭載可能なごみ箱の作成・配布
- 普及啓発 地元学生デザインの看板、高速道路管理者等との協働によるデジタルサイネージの掲示等、トラック協会からの情報発信
- 清掃活動等 トラックターミナル周辺での看板設置式及び清掃活動

## 成果と今後の展開

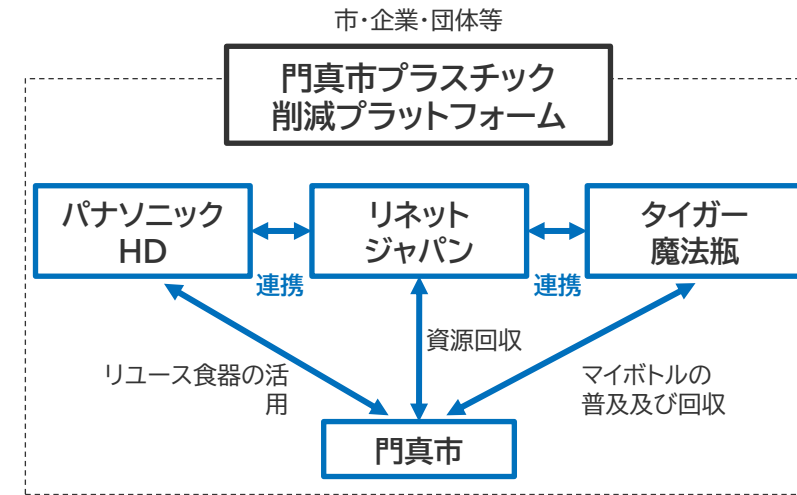
- 成果 大阪府トラック協会との連携構築  
運転室内搭載ごみ箱の配布や啓発資材の多方面展開
- 今後の展開 大阪府トラック協会と連携した取り組みを継続



## 取組の目的

■対象 市職員、市民、企業、団体

■目的 自治体と企業が協働して地域のプラスチックごみの発生抑制を進めるプラットフォームを組成し、産学官の多様な関係者が参画した実効性のある「プラスチック削減方針」を策定する等、市民の行動変容に繋がる取り組みを推進する。併せて、本事業の成功事例をベースモデルとして全国の自治体と共有することで、自治体間の連携の輪を広げる。



## 取組の概要

- 発生抑制 イベントへのリユース食器の提供事業の試行、新たな資源回収ルートの構築。
- 普及啓発 プラスチック削減プラットフォームの設立、マイボトル普及率向上に向けた率先行動。
- その他 プラスチック削減プラットフォームへの地域企業の巻き込み。



## 成果と今後の展開

- 成果 プラスチック削減プラットフォームの設立。リユース食器の提供、市職員の率先行動の取組。新たな資源回収ルートの構築。
- 今後の展開 プラットフォーム参画企業の拡充。



## 取組の目的

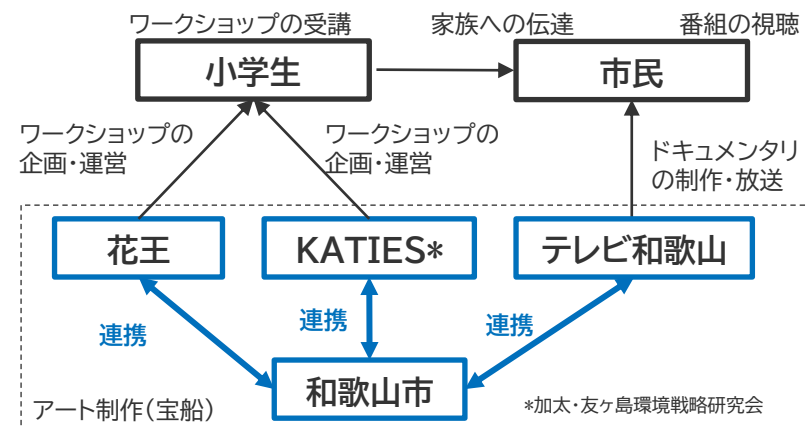
- **対象** 市民、小学生
- **目的** 人々の海洋ごみに対する意識を変革する体験デザインの創出をめざし、アート船の制作プロジェクトと教育プロジェクトを実施。一連の様子をマスメディアで発信。昨年度の成果も活用しながらコンテンツの拡張を図る。

## 取組の概要

- **リサイクル** 回収した海洋ごみによるアート作品の制作。
- **普及啓発** 市内小学生に向けた海洋ごみワークショップの実施とシンボルキャラクター(ウミプラー)との連携、一連の取組をTVにて紹介。
- **清掃活動他** 地ノ島(無人島)での海洋ごみの回収と啓発用資材・アート資材への活用、ワークショップでのアンケート。

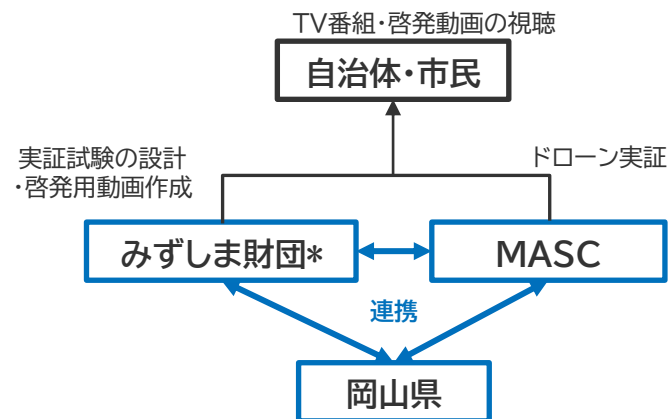
## 成果と今後の展開

- **成果** アート制作と啓発番組の放映。  
小学生向けウミプラーワークショップの試行。
- **今後の展開** ウミプラーを活用した取組の普及と深化。



## 取組の目的

- **対象** 離島等ごみ回収困難地点を抱える地域及び自治体、市民
- **目的** 海岸漂着物等の回収困難地点におけるごみ搬出方法として、ドローンの活用を提案し、搬出方法の選択肢を増やすことを目指す実証実験を行う。また、ドローンによる実証実験の話題性を活かした情報発信・啓発事業を実施し、海洋ごみ問題の解決方策の提案と普及啓発を同時達成を目指す。



## 取組の概要

- **ごみ回収** ドローンによるごみの搬出。
- **普及啓発** ドローン実証実験のマスメディアによる紹介、実証試験の様子を活用した普及啓発の実施(動画制作・啓発講座)、シンポジウム等での啓発動画放映。
- **その他** ドローンによるごみ搬出における法的な整理、ワークショップ等でのアンケート。

## 成果と今後の展開

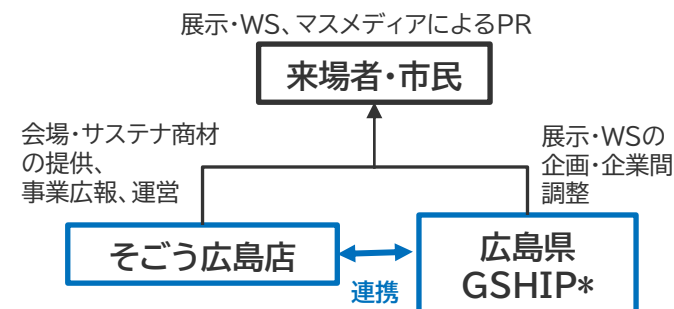
- **成果** ドローンによるごみ搬出実験の実施。  
マスメディアを通じた取組のPR。
- **今後の展開** ドローン活用方策の具体化と啓発動画を活用した普及啓発。



\*水島地域環境再生財団

## 取組の目的

- 対象 市民(そごう広島店の来店者)、GSHIP参画企業及び団体
- 目的 秋の海ごみゼロウィークに併せて、百貨店全館を海ごみ啓発・情報発信基地として「おしゃれ」「暮らし」「学び」等をテーマに普及啓発事業を展開。エシカル商品の提供や情報発信、環境学習等を多様な市民が集う場で実施することで、海ごみについての理解促進や行動変容の機会を創出する。



\*GREEN SEA 瀬戸内ひろしま・プラットフォーム(略称「GSHIP」)  
広島県が2021年6月に設立した海洋プラスチックごみ対策に係る官民連携プラットフォーム

## 取組の概要

- 普及啓発 そごう広島店本館一体での海ごみ問題の啓発(サステナブルウィークス)、その解決に貢献する地域の先進的なサービス・製品の紹介、エシカル消費へ促す機会の提供。
- その他 自治体・企業・団体等の官民連携体制の構築、訪問客へのアンケート。



## 成果と今後の展開

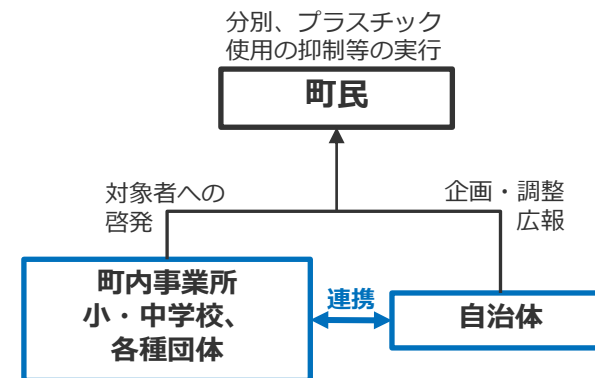
- 成果 百貨店の集客力をコアにした大々的な啓発事業の実施とモデル構築。
- 今後の展開 県内・瀬戸内地域の企業・団体の巻き込み。そごう広島周辺エリア一帯を巻き込む形での啓発事業の実施。



# 令和5年度採択自治体の取組

## 取組の目的

- **対象** 町民(事業所の従業員と来店者、小・中学生とその保護者、各種団体 等)
- **目的** 小・中学校、事業所、各種団体など、多方面から分別、リサイクル、海ごみ問題について協力を促す。内陸部である度会町であるが、海ごみ問題を自分事として意識を持ち、行動を起こすことで、ごみ流出を防ぐことを目的とする。



## 取組の概要

- **普及啓発**
  - ① 児童から保護者へ 養成講座を受講した小学3年生を、資源ごみ分別マイスターに認定。保護者、学校、協力の下、マイスターランクアップに向けミッションへ挑む。
  - ② 生徒から保護者へ 中学校全校生徒へ向けた分別、海ごみ問題に関する話題を提供。希望者に対し啓発物品を配布。物品が話題とともに保護者へ渡る。
  - ③ 事業所から来店者へ 商工会等を「宣言の店」へ指定し、デザインパネルを店内等へ掲げ、来店者へ分別やリサイクル、マイバッグ・ボトルなどの啓発に取り組む。
  - ④ 各種団体から地域へ 各種団体と座談会を実施し、分別やリサイクル、海ごみ問題等を地域の話題として広げる。
  - ⑤ SNSでの発信 シンボリックデザインを掲げてもらい、サポーターとして町公式Instagramへ登場してもらう。「敷居は低く、レスポンスを高く」



## 成果と今後の展開

- **成果** アンケート結果から、意識が高くなっていることが分かる。また美化センターに収集されるペットボトルやプラスチック類については、目に見えて分別が進んでいる。
- **今後の展開** 宮川流域市町との連携による、内陸部からの海ごみ対策の波及。

## 取組の目的

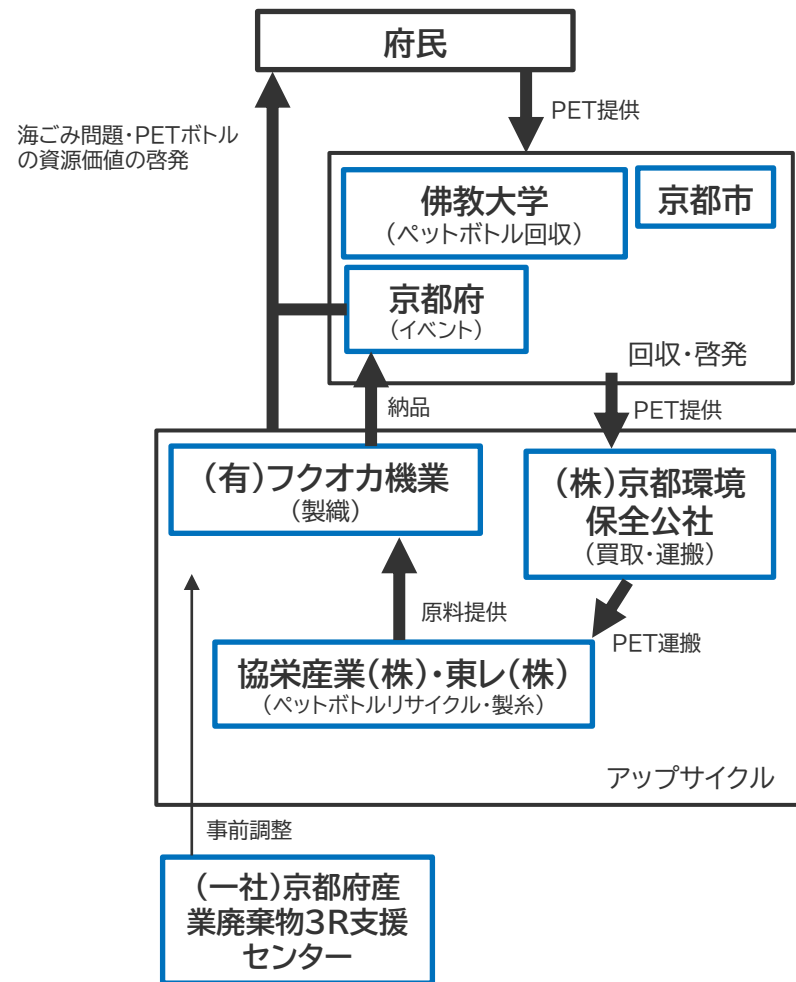
- **対象** 府民
- **目的** PETボトルに焦点を当て、ポイ捨て、ひいては海洋へも流出している現状について知っていただき、さらに西陣の織物へのアップサイクルを通して、資源としての意識付けを図る。

## 取組の概要

- **普及啓発** PETボトルの回収活動でPETボトルのアップサイクルについて知っていただくとともに、さらに環境イベントにおいて、海洋プラスチック問題の現状と併せてアップサイクルの成果を実際に見ていただく。
- **発生抑制** 上記の普及啓発により、ごみとしてのPETボトル排出やポイ捨てによる海洋流出の抑制を図る。

## 成果と今後の展開

- **成果** PETボトル回収において、資源としての意識付けを行った。
- **今後の展開** 本事業を契機とした企業間のつながりによるアップサイクルの継続・発展。  
引き続き海洋流出問題やPETボトルの資源価値について、身近な課題として周知を継続。



## 取組の目的

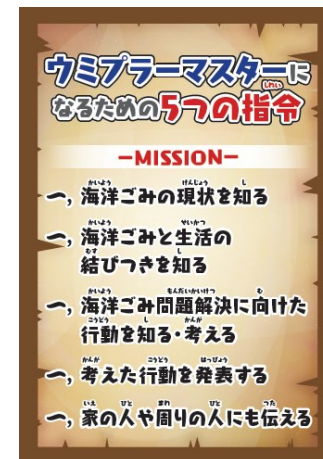
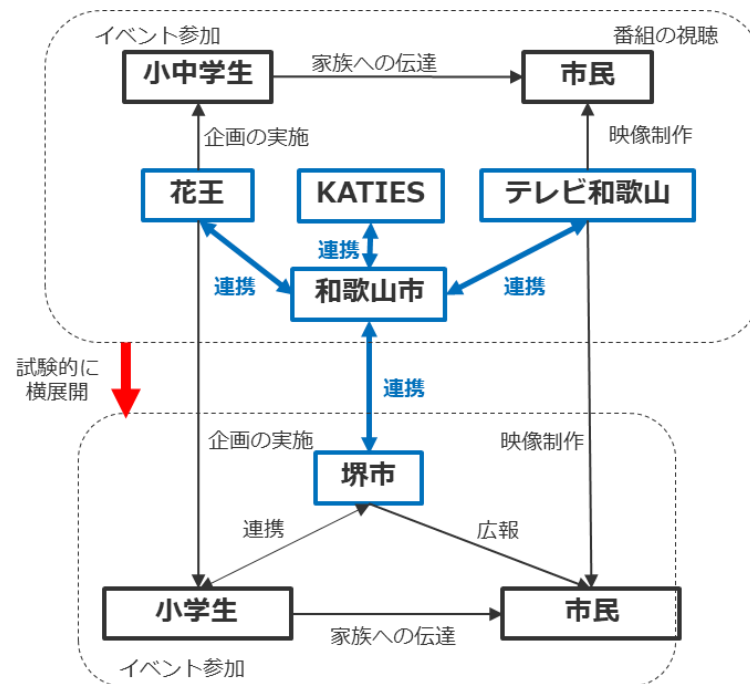
- **対象** 堺市及び和歌山市の小学生とその保護者を含む全市民
- **目的** 豊かな海づくりに向けた取組を全国的に波及させることを目標に、「ウミプラー」を用いた教育コンテンツを他自治体へ横展開を進めるため、試験的に堺市へ横展開し効果検証を行うこと。

## 取組の概要

- **発生抑制** 「ウミプラー」を活用した教育コンテンツ(海洋ごみ回収イベントやワークショップ含む)を実施。
- **普及啓発** 一連の取組をテレビ及びインターネットにて動画で紹介。
- **地域間交流** 大阪湾に面しているという共通点を持った地域間交流を通じ、少数では解決できない課題に挑戦する仲間づくり。

## 成果と今後の展開

- **成果** 教育現場で求められる形へコンテンツのブラッシュアップ・充実化を図ることができた。
- **今後の展開** 市内への大阪湾周辺地域にウミプラーの取組を波及させ、普及啓発を加速させる。

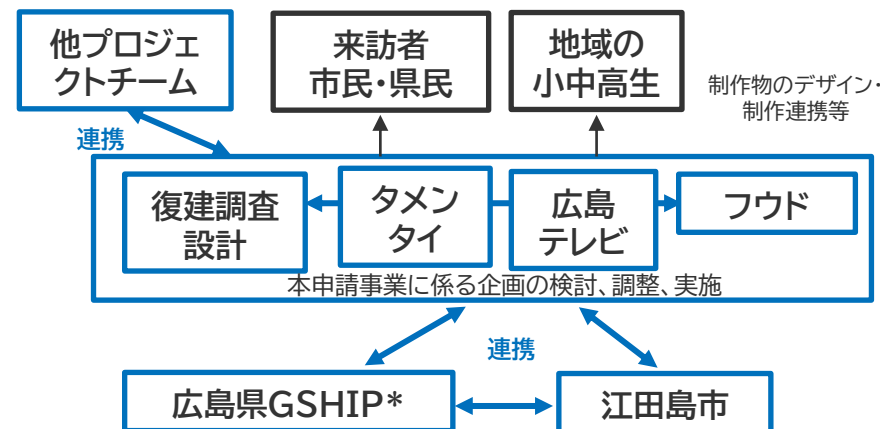


## 取組の目的

- 対象 市民・県民、実施地域の小中高生
- 目的 海洋ごみ問題を可視化させ、発生源と漂着エリア双方向から問題を考える取組の実施により、市民・県民による海洋ごみ削減に向けた自発性や当事者意識を醸成させるとともに、広島への海へのファンづくりを行う。

## 取組の概要

- ごみ回収 エンターテインメント性を加えた清掃活動イベントの実施。
- 普及啓発 海洋ごみ回収ボックスのデザインコンテストの実施・制作、ワークショップの開催、ごみの量を「見える化」できるアート制作・展示、一連の活動を番組企画として放送、発信。
- その他 デジタル技術を活用した海流シミュレーション分析により、拾った海洋ごみがどこから流れてきたものかを推測（連携企業のリソースを活かす形での発生源の把握）。



\*GREEN SEA 瀬戸内ひろしま・プラットフォーム(略称「GSHIP」)  
広島県が2021年6月に設立した海洋プラスチックごみ対策に係る官民連携プラットフォーム

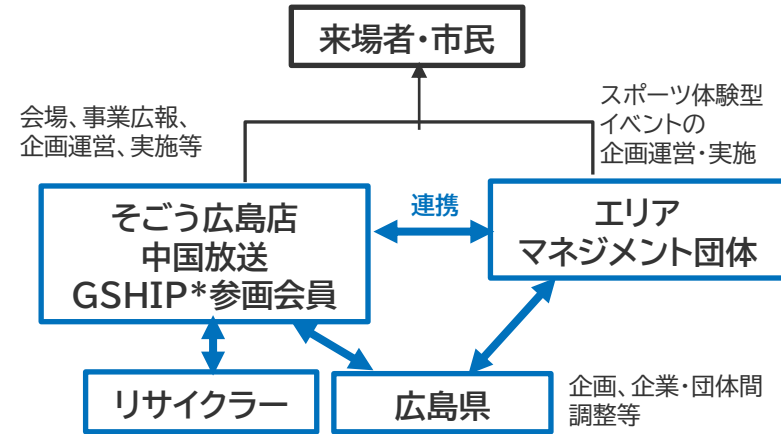


## 成果と今後の展開

- 成果 メディアを通じた発信により、海ごみに注目していない県民へ広く面的に認知向上が図れた。アイデア応募者をきっかけに、友人知人や家族等が展示会やアイデア投票など気軽に参加でき輪が広がった。また、地元の漁業者と清掃イベントで初めて連携したことで、今後の継続した清掃活動の土台が築けた。
- 今後の展開 アップサイクルの要素を取り入れた取組の展開、江田島をフィールドにした活動の継続。

## 取組の目的

- 対象 市民・県民、エリア一体の企業・団体、GSHIP会員 等
- 目的 海洋プラスチック問題へのアプローチに際して、身近にある「スポーツ」の要素を加えることで間口を広げ、楽しみながら意識醸成するとともに、スポーツウェア等の回収・アップサイクルやペットボトルの3分別回収の促進等により、取組を可視化することで、取組への付加価値を高め、さらなる機運醸成を図る。



\*GREEN SEA 瀬戸内ひろしま・プラットフォーム(略称「GSHIP」)  
広島県が2021年6月に設立した海洋プラスチックごみ対策に係る官民連携プラットフォーム

## 取組の概要

- ごみ回収 GSHIP参画会員やスポーツファン等との連携によるスポーツを融合させた清掃イベントの実施(3月)(清掃場所:紙屋町・基町エリア一体)。
- リサイクル スポーツ体験型イベントの会場等において、スポーツウェア等を回収(10月)。回収したスポーツウェア等をアップサイクルしたサンフレッチェ広島とのコラボ軍手を制作し、資源循環の見える化を実現。ペットボトルのキャップアート制作。
- 普及啓発 スポーツ体験型イベントやそごう広島店と連携し、スポーツを軸とした海洋プラスチック対策に係る先進事例の紹介、ペットボトルのボトルtoボトル等に係る取組紹介。



## 成果と今後の展開

- 成果 そごう広島店の周辺エリア一帯(地域全体)での取組として昨年から発展化。加えて、スポーツチームとの連携により、海ごみ問題へのアプローチをスポーツファンにも広げるなど、より多くの県民を巻き込んだ形で実施。
- 今後の展開 スポーツチームにおける地域密着活動(交流促進)の一環としても継続的に実施。



## 取組の目的

■対象 今治商工会議所(事業者)、市民、中学生

■目的 地域住民が自主的に活動を行っている、湊・大新田アダプトプログラム事業に事業者(今治商工会議所)・市民・中学校が参加し、持続可能な海岸清掃活動を確立する。

## 取組の概要

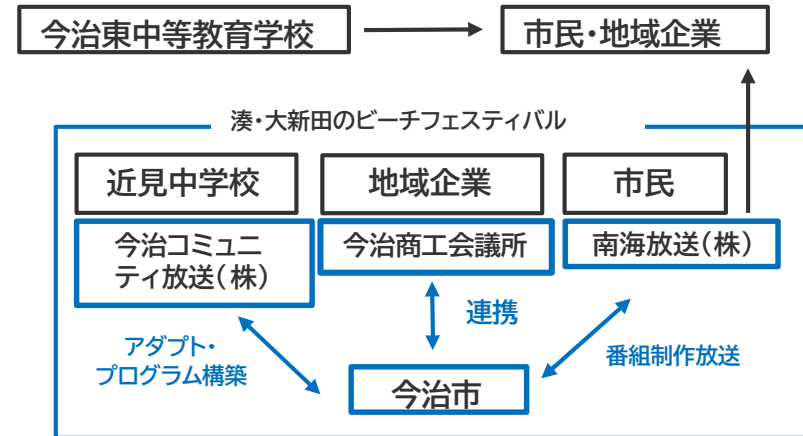
■普及啓発 市ではプラ軽減・海ごみ問題の啓発を市全体で行っているがまだまだ浸透していない。  
今治商工会議所の推進する環境アクションプランと連携し、中・高生に学ぶ機会を提供する。  
湊・大新田アダプトプロジェクトを市全体へ波及させる。

## 成果と今後の展開

■成果 湊・大新田アダプトプロジェクトをモデル事業として確立。  
地域内事業所・中学校への展開方法の確立。

■今後の展開 湊・大新田海岸以外への海岸で事業を実施し  
BARISTYLE Clean upを確立する。

今治市環境フェスティバルにて海岸清掃活動の発表



## 取組の目的

■対象 町内 小学生と保護者

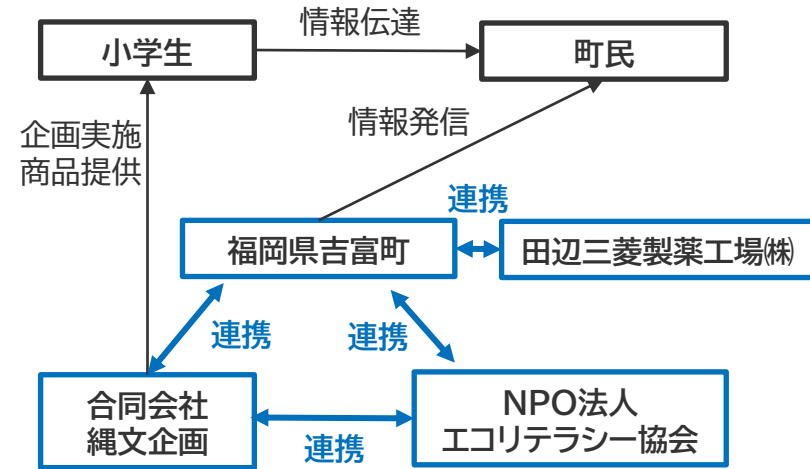
■目的 地域の将来を担う“今の子ども達”へWSを行い、海洋ごみを収集する意味と意義から脱炭素意識を高めるとともに、小学生の学びを通じて、大人の行動変容に繋げることで、町が掲げる「脱炭素日本一」の実現を目指す。

## 取組の概要

- 普及啓発 海の生態系に関わる海洋ごみ・マイクロプラスチック問題や町の取組に関する学習。  
ペットボトルキャップを使ったアップサイクルWS体験。  
清掃活動・WSの広報PR(HP・広報誌・SNS)。
- 発生抑制 WSとその広報活動を通じて、ごみを捨てない考え方や、ごみは重要な資源であるとの意識を醸成。
- 清掃活動 吉富海岸の北西の風により一番ごみが溜まる場所での清掃活動。

## 成果と今後の展開

- 成果 WSを起点とした児童から大人への行動変容を促すアプローチの構築。  
自分たちが出しているごみが資源になるとの気づきの機会の提供。  
地元企業を巻き込む地域コミュニティの醸成と共生社会実現に向けたきっかけづくり。
- 今後の展開 町内中小企業への波及。  
2050年CN達成に向けたワカモノの活用(小中学生への教育プログラム化、清掃活動への参加促進)。



## 令和6年度採択自治体の取組

## 取組の目的

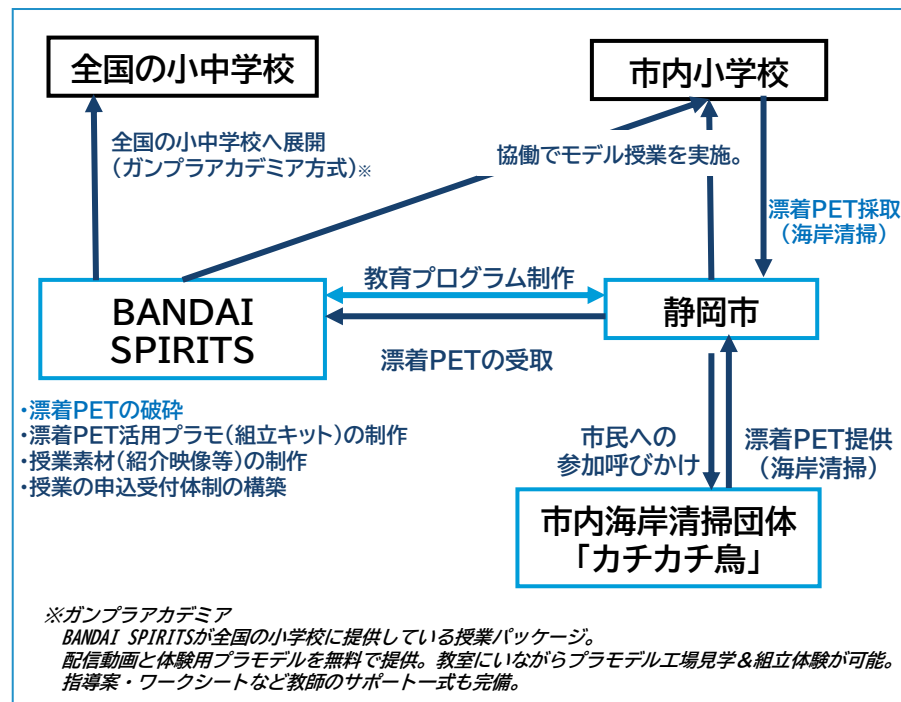
- 対象 全国の小学生
- 目的 静岡市の地場産業であるプラモデルを題材に、漂着PETボトルをリサイクルしたプラモデルの組立授業(教育プログラム)を制作する。この授業を様々な地域に展開していくことで、全国で海洋プラスチックごみを生み出さない意識付けを図るとともに、海岸清掃等の実践行動を促す。

## 取組の概要

- 普及啓発 市内小学校を対象に、海洋プラスチックごみをテーマとしたモデル授業をBANDAI SPIRITSと静岡市で協働実施。
- 教材制作 モデル授業の実施結果や教育現場の意見を踏まえ、全国の小学校に授業で活用してもらうための動画教材・指導案を制作。今後、希望する小学校に教材とプラモデルを配付していく。

## 成果と今後の展開

- 成果 学習効果・実用性の高い教育プログラムの制作。教育プログラムを持続的に提供する体制の構築。
- 今後の展開 全国の小学校へ呼びかけ、活用実績を増やしていく。



## 取組の目的

**■対象** 宇治山田商業高校、昴学園高校、県内高校ボート部、宮川ボートクラブ、宮川パドルスポーツ利用者、地域住民、その他関係者

**■目的** ゲーム感覚で水上のごみ拾いを楽しめるプラスチックフィッシング大会を通じて、若い世代を中心に海洋ごみ問題や清流宮川への関心を高め、宮川流域圏全体で清流を守っていく機運を醸成する。

## 取組の概要

**■清掃活動** 三瀬谷ダム湖にてプラスチックフィッシング大会を開催。カヌー・SUPに乗り、ごみ拾いを実施。県内高校生を中心に総勢30名が参加。

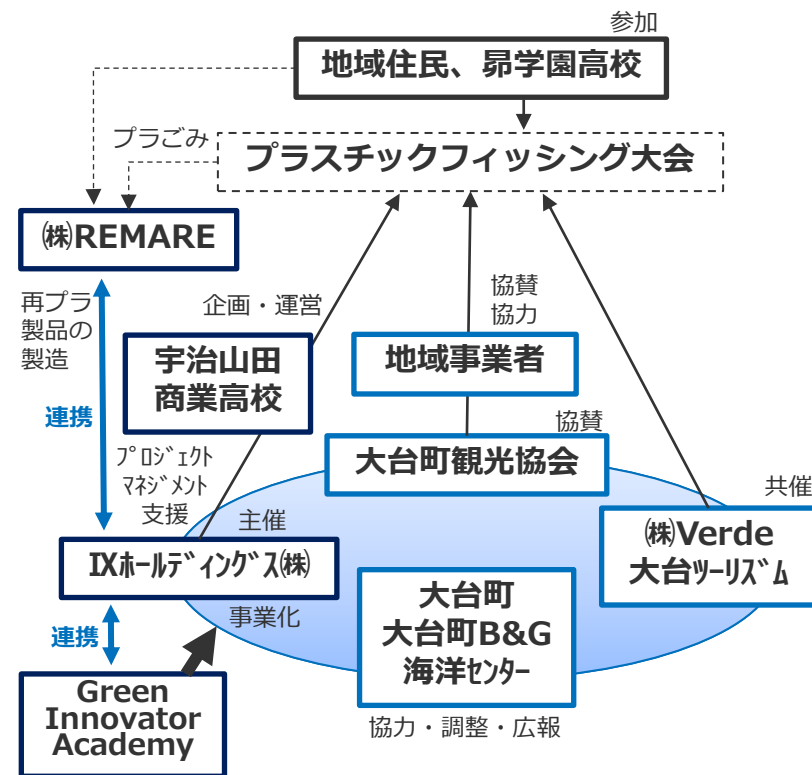
**■普及啓発** 昴学園高校の生徒がプラスチックフィッシング大会で集めたごみでアート作品を製作。完成した作品を大台町観光協会に展示。作品・展示の様子を三重テレビ放送による芸人とコラボした「ゴミ旅アート」にて放送。

**■リサイクル** プラスチックフィッシング大会で回収したごみや町内小中学校から回収したペットボトルキャップを材料に宇治山田商業高校の生徒がワークショップで利用するキーホルダーを製作。

## 成果と今後の展開

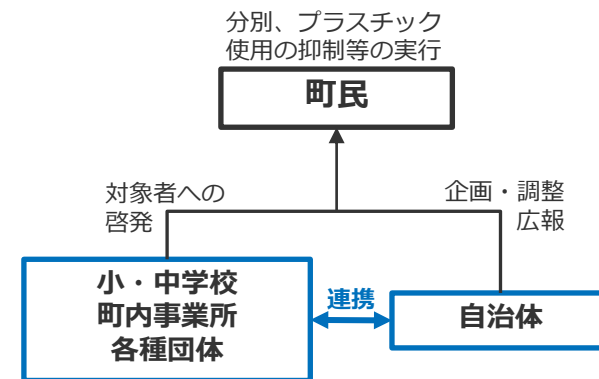
**■成果** SUP、カヌーに初めて乗る方も楽しんで実施できた。回収して終わりではなく、ごみは洗浄、分別後、高校生らがアート作品の製作、町内に展示した。一連の取組は各方面のメディアを活用して普及啓発を行った。

**■今後の展開** プラスチックフィッシング大会の継続。近隣自治体と連携し、ごみ発生の抜本的な問題解消に努める。



## 取組の目的

- 対象 町民  
(小・中学生とその保護者、事業所の従業員と来店者、各種団体 等)
- 目的 小・中学校、事業所、各種団体など、多方面から分別、リサイクル、海ごみ問題について協力を促す。内陸部である度会町から、海ごみ問題を自分事として意識を持ち、行動を起こすことで、ごみ流出を防ぐことを目的とする。



## 取組の概要

- 普及啓発
  - ① 児童から保護者へ 小学3年生65人を資源ごみ分別マイスターに認定。また4年生60人を対象に、住友電気工業等の協力を得て環境学習を実施。PTAを通じて募集した座談会には14家族33人が参加し、主に分別と海ごみ問題について学び、意識を高めた。
  - ② 生徒から保護者へ 中学校生徒会主催により全校生徒203人が海ごみゼロウィークと絡めた宮川清掃活動を実施。またウォーク×クリーンに参加した生徒及び保護者23人が宮川沿道路(ジョギング大会コース)で美化活動を実施。
  - ③ 宮川流域市町との連携 大台町が実施したプラスチックフィッシングに参加し、参加者への分別指導、内陸部からの海ごみ削減を啓発。
  - ④ その他 SNSでの発信、各種団体と座談会を実施、宣言の店を通じて分別や海ごみ問題等について啓発。



## 成果と今後の展開

- 成果 アンケート結果等から、ごみや分別に対する関心・意識の高まりが確認された。目に見える成果としては、スーパー(宣言の店)にペットボトルやプラ容器などを回収するリサイクルスペースが設置された。



- 今後の展開 10年後の「二十歳の集い」に、マイスターブースの設置等がされるよう、事業のアップデートと継続。

## 取組の目的

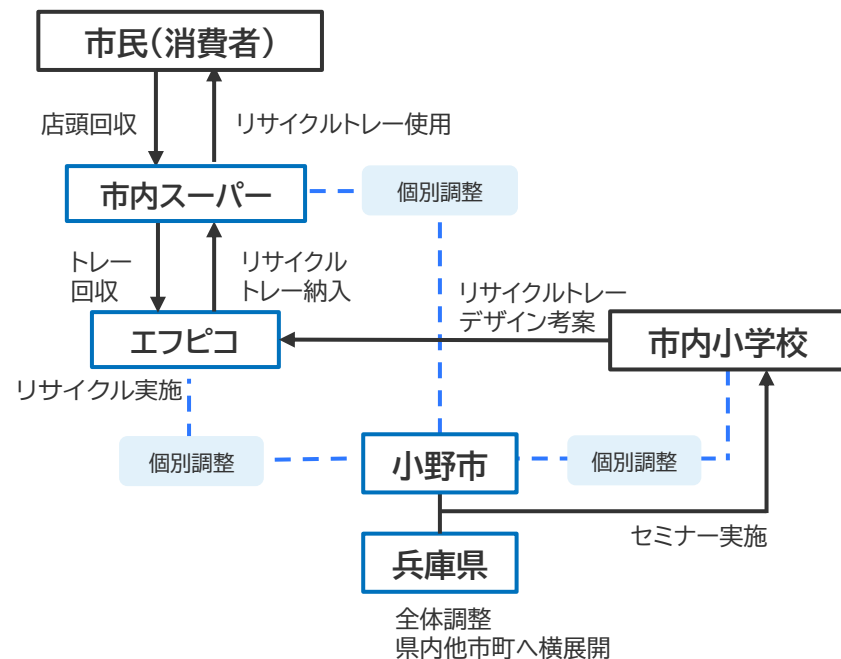
- 対象 小野市民(消費者、小学生)
- 目的 兵庫県ではプラスチックの水平リサイクルの観点から(株)エフピコと普及啓発等の取組を進めている。本事業では小野市内にて、小学生が考案した啓発デザインを施した食品トレーを製造、小売店で利用・回収し、リサイクルを市内選別工場等で実施することで、食品トレーの域内循環を行う。本事業をモデルケースとして県内市町へ横展開を図る。脱炭素への貢献も留意しつつ、食品トレーにとどまらず、プラスチックをはじめとするあらゆる廃棄物を資源として循環する意識を高め、海洋ごみの発生抑制へとつなげる。

## 取組の概要

- 普及啓発 市内小学校に通う児童に海洋ごみの現状と対策に係るセミナーを行う。セミナーを通じて得た知識をもとに、児童が海洋ごみ発生抑制に資するリサイクルトレーの啓発デザインを考案。
- リサイクル 市内スーパーの店頭で回収された食品トレーを再度食品トレーとしてリサイクルし、スーパーへ再度納入する。リサイクルトレーには上記の啓発デザインを施す。
- 発生抑制 上記の取組のPRや横展開を図ることで、市民に対して脱炭素にも寄与する資源循環の推進、海洋ごみ発生抑制に係る意識の向上を図る。

## 成果と今後の展開

- 成果 店頭回収によるトレーの回収量が前年同月比で増加  
店頭回収に協力しようとする市民割合の増加
- 今後の展開 県内他地域における取組実施  
市内小学生、高校生に向けた環境学習等を実施



## 取組の目的

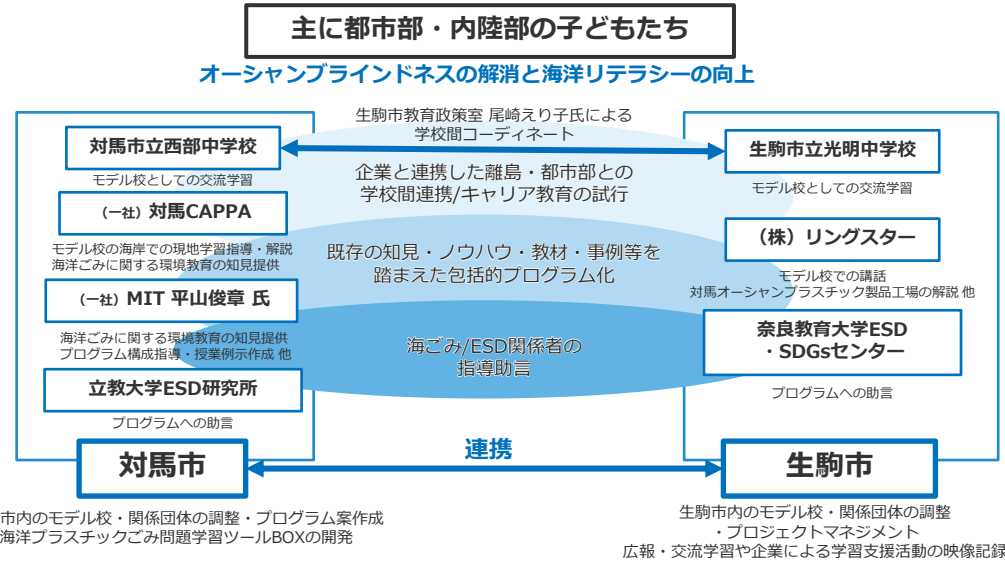
- 対象 主に都市部・内陸部の子どもたち
- 目的 都市部・内陸部における海洋ごみに関するオーシャンブラインドネスの解消と海洋リテラシーの向上。

## 取組の概要

- 普及啓発 SDGs未来都市である離島と内陸自治体が連携した海洋ごみ削減につながるESDプログラムや教材を開発・普及。

## 成果と今後の展開

- 成果 ESDプログラムは都市部・内陸部の子どもたちのオーシャンブラインドネスを解消することを目指し、以下のコンセプトで開発した。
  - ①対馬で蓄積された海洋ごみに関する環境教育・ESDの知見・ノウハウを見える化。
  - ②都市・内陸部でも現場に近い感覚で学習できる工夫
 一部プログラムの試行を通じ、海洋ごみの根本的解決において離島/都市・内陸部の交流学习は極めて有効であることが分かった。
- 今後の展開 令和7年度～8年度、生駒市の小中高に対してプログラムを提示し、モデル校で試行。併せて、上記課題を検討。令和9年度以降、全国他の都市・内陸部へ水平展開。



プログラム教材の一例（現場での体験学習のお話）



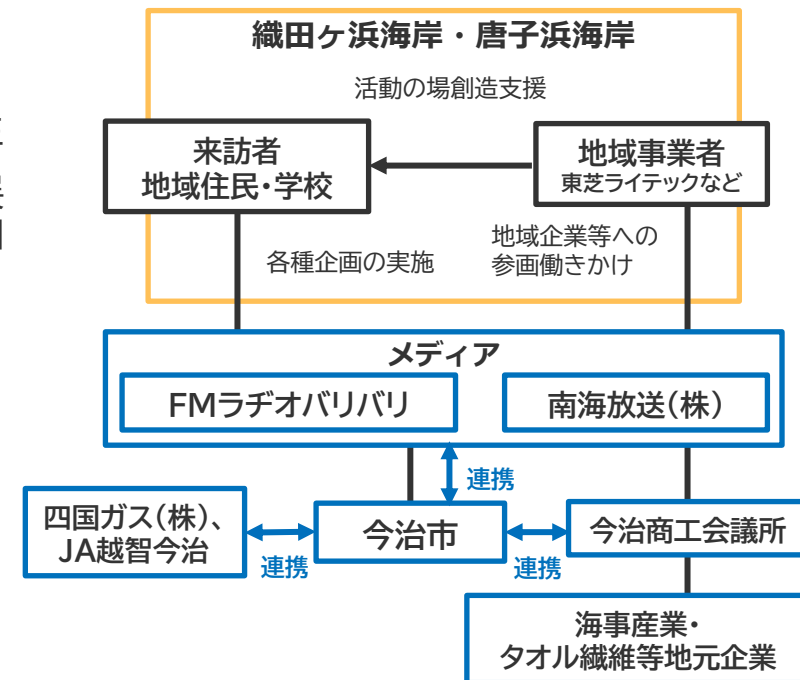
リングスター社製「対馬オーシャンプラスチックボックス」を用いた海洋プラごみ問題学習ツールBOX

## 取組の目的

- **対象** 市内ボランティア団体、地域住民、市内企業・団体、児童・生徒、学生
- **目的** 令和5年度に実施した事業の湊・大新田アダプト・プログラムの横展開として、今治市を代表する海岸である織田ヶ浜海岸(R5環境省自然共生サイト認定)、唐子浜海岸に落とし込み、下記の事業により海洋ごみ等問題を考える市民意識の向上を図る。

## 取組の概要

- **清掃活動・発生抑制** **活動の連携**
  - ・アダプト・プログラムの横展開(イベント開催)
  - ・清掃活動団体等の交流(清掃活動団体の横断幕リレー)
  - ・川ごみの調査と清掃活動(発生抑制)
- **普及啓発** **活動の見える化と海洋ごみ問題の興味関心への想起**
  - ・浜の診断書作成による海岸の可視化
  - ・SDGsカードゲーム「CHANGE FOR THE BLUE」の実施
  - ・漂着ごみ専用ごみ箱(ありがとうごみ箱)の設置
  - ・スマホアプリによる活動の共有
- **その他** **自然保護**
  - ・海岸の希少種の保護活動(市内小学校が活動中)**その他**
  - ・デジタル地域通貨・地域ポイント導入実証



## 成果と今後の展開

- **成果** 海洋環境に関する様々な活動主体等との活動の組み合わせにより、新たな参加者層を獲得。カードゲームなどによる海洋環境問題への興味関心の想起。
- **今後の展開** 浜の診断書の見える化による支援体制の構築。商工会議所の環境アクションプランを核とした企業等の参加の促進と連携



## 取組の目的

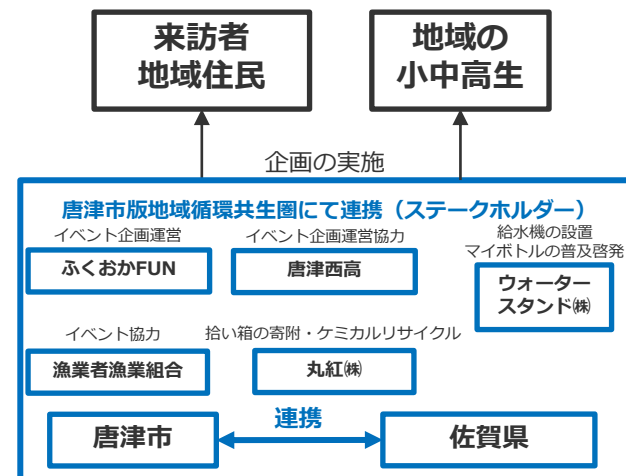
- **対象** 市民、実施地域の児童・学生など
- **目的** ビーチクリーンや海中ごみの収集に加え海草をはじめとした種苗の投入などのイベントを通じて、市民や小中高生による海洋ごみ問題やごみを与える生物多様性への影響について考える機会を創出する。また、「(仮称)世界海洋プラスチックプランニングセンター」(令和8年度開業予定)に向けて市内の海洋ごみに対する自発性や当事者意識の醸成を促進させる。

## 取組の概要

- **ごみの回収** ダイバー・漁業者による海中ごみの収集を行う。  
既存の海岸漂着物専用ごみ箱「拾い箱」の活用やビーチクリーン及び街中での清掃活動イベントの開催
- **普及啓発** ダイバー及び漁業者による海中ごみの収集に併せて「アマモ」の種苗の投入など行い海域における生物多様性の保全に資するイベントを開催した。  
海中の様子を配信し、海洋ごみが生態系へ与える影響を可視化し、ごみに対する当事者意識醸成を促す。
- **発生抑制** イベント会場における給水機を設置し、マイボトル持参を促す。  
上記イベントを通じて、ごみの発生抑制の意識醸成を図る。
- **リサイクル** イベントや「拾い箱」にて集まった海洋プラスチックのリサイクル

## 成果と今後の展開

- **成果** 海岸漂着ごみ及び海中ごみ、街中のごみ約150袋分回収した  
イベント参加後に具体的に海洋保全の取組を行う企業などを応援し始めた等、行動変容に結びついた回答がみられた
- **今後の展開** 佐賀県及び多数のステークホルダーによる唐津市各地における清掃イベントを開催  
連携増進活動実施計画の策定、他地域との連携による里海づくりへの挑戦



# 令和7年度採択自治体の取組

## 取組の目的

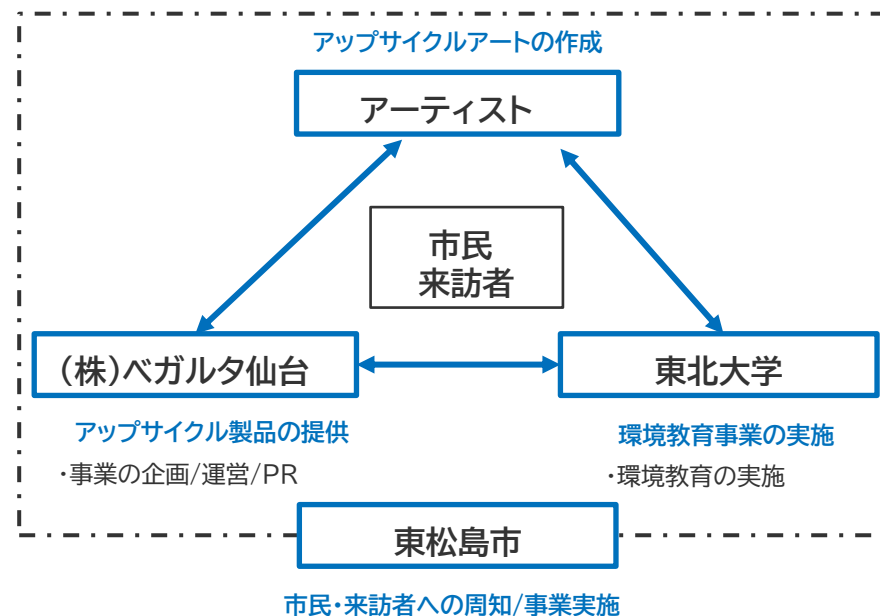
- **対象** 地域住民、ビーチスポーツ関係者、漁協等
- **目的** 海洋ごみについて、より一層の対策を進めていくために、企業や研究機関の先進技術や知見を活用し、アップサイクルしたものを活用し、地域住民の理解促進を図り、海洋ごみをはじめとした、廃棄物の削減や環境意識の向上へ繋げていく。

## 取組の概要

- **清掃活動** 野蒜海岸において、市内で活動する各種団体による1000人ビーチクリーン活動を行う。
- **アップサイクル** ビーチクリーンで回収したごみや市内小中学校で回収した食品トレーを素材とし、アップサイクル製品を作成、配布と普及啓発を実施する。
- **普及啓発** 市内小学校へ海洋環境やプラスチックについて学ぶSDGs出前授業の実施や、サッカースタジアム等での普及啓発、流木や海洋ごみを使ったアップサイクルアートの作成等、関係者と連携した普及啓発活動を展開する。

## 成果と今後の展開

- **成果** ベガルタ仙台や東北大学らとの連携事業により、市内小学生やスポーツ関係者へ海洋ごみ問題をはじめとする環境教育の場を提供できた。
- **今後の展開** 海洋プラスチック×スポーツ、海洋プラスチック×教育を切り口に、SDGs教育やサッカースタジアムでのアップサイクル事業等、多様な層の行動変容に繋げる取組を展開する。地域で活動している環境団体と連携し、ビーチクリーン作戦等を定期的実施し、陸から海洋へのごみ流出を防ぎ、情報発信を行う。



## 取組の目的

- **対象** 全国の教育関係者及び小学生・中学生
- **目的** 漂着ペットボトルを一部再利用したプラモデルの組み立て体験を通じ、海洋プラスチック問題について学習する授業パッケージを制作する。この授業を全国に展開し、海洋プラスチック問題の解決に向けた意識の向上及び問題の「自分ごと」化による行動変容を図る。

## 取組の概要

- **普及啓発**
  - (1) 授業パッケージの作成
    - ・モデル授業による教材のブラッシュアップ
  - (2) 教材提供体制の構築・情報発信
    - ・R7年10月に全国展開を開始
  - (3) 展開(需要の創出・拡大)
    - ・都市間連携による事業推進体制の構築 12自治体
    - ・イベント版クリーンオーシャンアカデミアの実施 (R8.1月:サンシャイン水族館、2月:名古屋港水族館)

## 成果と今後の展開

- **成果** 実施機関 42機関(2,781名)
- **今後の展開** 全国展開事業の継続及び他自治体等との連携体制の拡大

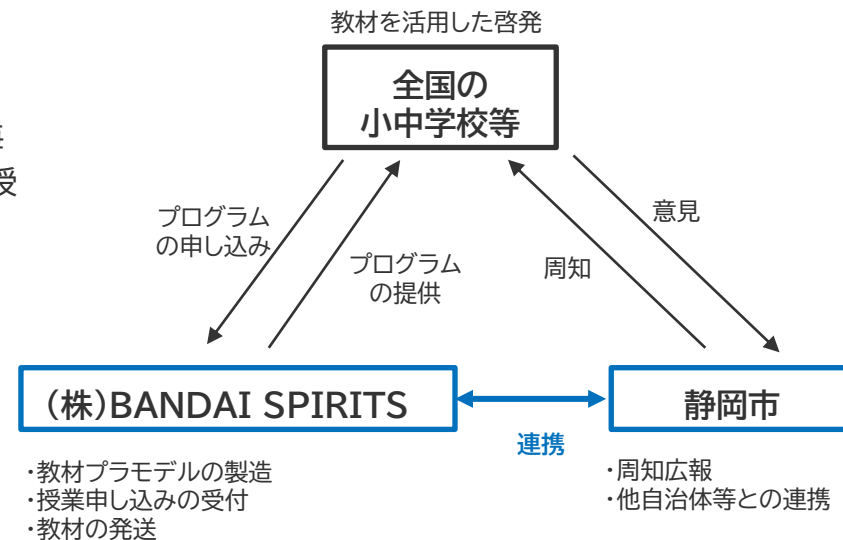
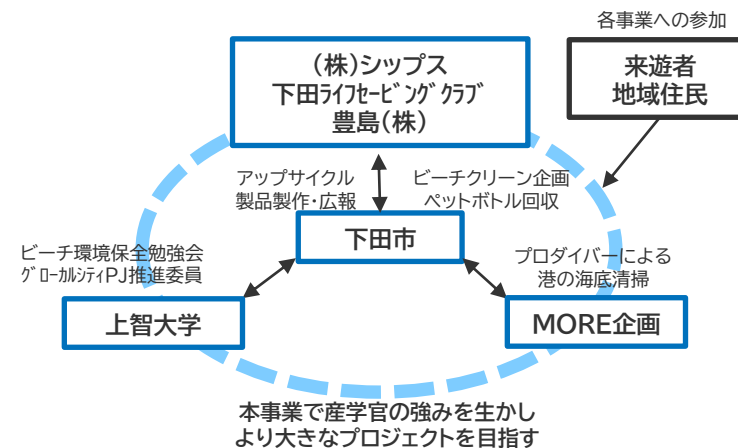


写真:クリーンオーシャンアカデミア活用授業の様子

## 取組の目的

■対象 連携企業・団体、市民、観光客

■目的 下田市グローバルCITYプロジェクトの一環として、ビーチ環境保全を推進する様々な取組を(株)シップスや上智大学といった市外団体と連携し行っているが、それぞれの企業どうしのつながりが無い。下田市をハブとして企業同士の連携を図り、企業だけでなく地域住民から観光客まで参画する基盤を作り、海洋環境保全プロジェクトを推進する。



## 取組の概要

- 発生抑制 連携事業者と市オリジナルマイボトルを作成し、モニター事業を実施した。(約400名のモニターが参加)
- 普及啓発 環境保全シンポジウム(2回)開催し、意識醸成と事業参画者の増加を図った。(一社)下田市観光協会公式SNSでの取組の周知を実施した。
- 清掃活動 海水浴場開設期間中、毎日1回ビーチを訪れている方と共にビーチクリーンを実施した。下田港にて海中に沈んだごみの回収事業を多くの事業者の協力を得て実施した。

## 成果と今後の展開

- 成果
  - ・シンポジウム等を通じた本事業参画団体の横連携を構築できた。
- 今後の展開
  - ・参画団体と連携した具体的なプロジェクトを発足し、推進する。
  - ・市HPや既存プラットフォームを活用し、環境保全活動の情報発信を強化する。(クリーン活動や給水所MAP等)

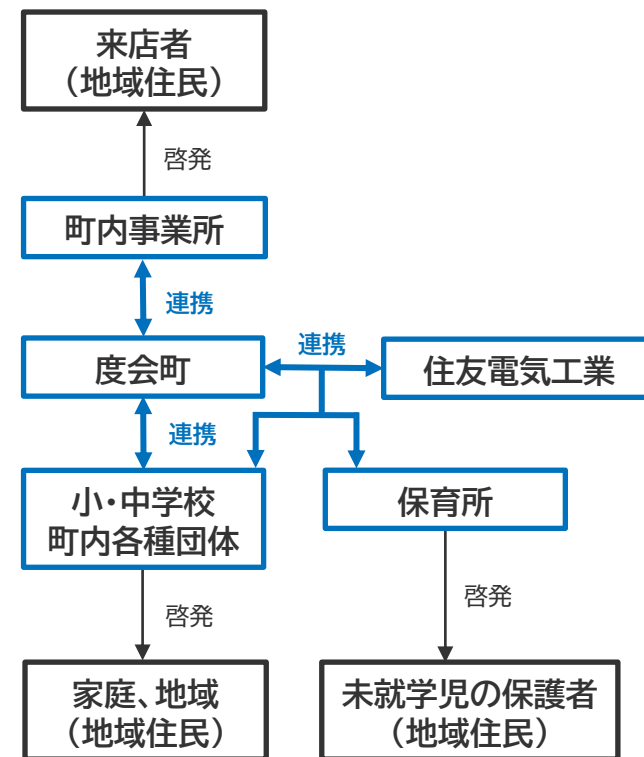


## 取組の目的

- **対象** 小・中学生とその保護者、未就学児の保護者 等
- **目的** 内陸部である当町であっても、海ごみ問題を他人事ではなく自分事として位置づけ、小・中学校、保育所など教育分野を主として分別・リサイクルへの協力を促し、家庭、地域で行動を起こすことを目的とする。

## 取組の概要

- **普及啓発**
  - ① 児童から保護者へ 小学3年生59人に「資源ごみ分別マイスター養成講座」を実施し、マイスターに認定。また4年生65人を対象に、伊勢広域環境組合の出前講座を実施した。
  - ② 生徒から保護者へ 中学校生徒会と連携し、全校生徒189人と宮川清掃活動を実施した。
  - ③ 未就学児とその保護者へ 町内3保育所と連携し、未就学児とその保護者に分別・リサイクルを推進し、集まったペットボトルキャップ等から連携企業である住友電気工業と、メタコル混合母子健康手帳カバーを作製し、配布した。
  - ④ SNSサポーター、座談会、宣言の店については、昨年度から継続して実施した。



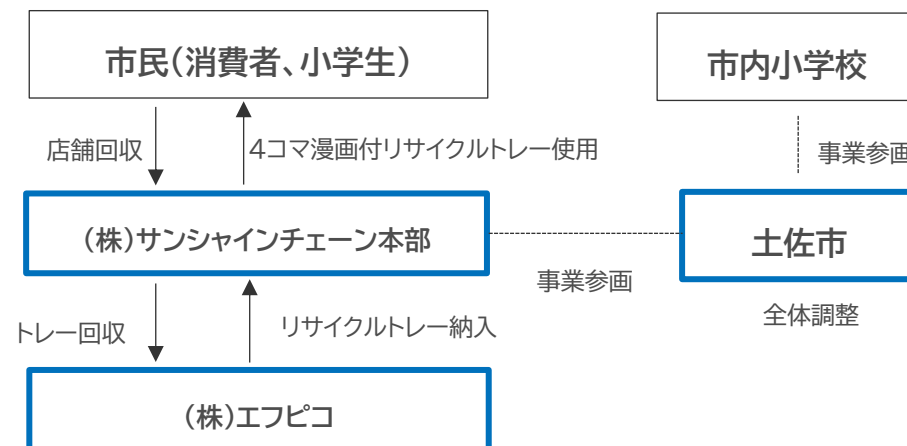
## 成果と今後の展開

- **成果** マイスターの保護者アンケート結果から、保護者の意識が高くなっていることが分かった。また再資源化率等の見える化から、町民意識の変革が見られた。
- **今後の展開** 小・中学校との連携では、行政職員以外での講師育成について検討する。



## 取組の目的

- **対象** 土佐市民(消費者、小学生)
- **目的** スーパーマーケットを営む(株)サンシャインチェーン本部、簡易食品容器製造販売メーカーの(株)エフピコと共同で、市内の小学生在が考えたリサイクル推進の「かんきょう4コマまんが」を印刷した食品トレーを使用することで、まずは食品トレーを契機に小学校を起点に市民を巻き込んだ循環型リサイクルを推進し、資源の保全、リサイクルへの意識を高め、海洋ごみの発生抑制に貢献していく。



## 取組の概要

- **普及啓発** 市内4小学校で、海ごみ、食品トレーやペットボトルの循環型リサイクル、市の温暖化対策計画等に関する環境学習を行い、習得した知識等をもとにチームごとに話し合い、海洋ごみ発生抑制に資する環境をテーマにした「かんきょう4コマまんが」づくりに着手する。
- **リサイクル** 市内の店舗に設置した回収ボックスで、使用済みトレーを回収し、(株)エフピコが原料に戻し、食品トレーを作る。再利用された「かんきょう4コマまんが」付き食品トレーを、(株)サンシャインチェーン本部が店舗で使用する。
- **発生抑制** 上記の取組みPRや横展開を図ることで、循環型リサイクルへの取組み、不法投棄の軽減、省エネ行動(デコ活)の実行など、環境意識の向上を図り、脱炭素社会実現に寄与するとともに、海洋ごみの発生抑制に貢献する。

## 成果と今後の展開

- **成果** 地域における市や企業が連携した循環型リサイクルの取組により、食品トレーリサイクル率の向上が認められ、本取組が持続可能であるという手ごたえを得た。
- **今後の展開** 令和8年度は、基本的に本年度の取組み内容を踏襲し実施していく。連携企業の取組みとして、他市町村にも範囲を広げていく計画があり、本市として可能な範囲で協力をしていく。

## 取組の目的

- 対象 西表島内の学生・西表島への観光客、一般の生活者
- 目的 世界自然遺産に登録されている西表島にて島民と島を訪れる観光客をモデルケースとして、企業連携を図った新たな観光・教育・経済のモデルを実施・検証する。

## 取組の概要

- 清掃活動 連携先企業(航空会社・小売店・地域観光事業者)と連携し、学生や観光客との清掃活動イベント・ツアーを企画・実施。
- 普及啓発 町内小中学校に向けた海洋プラスチックごみをテーマとしたモデル授業を実施。観光客に向けたツアー内で講義を実施。
- リサイクル 清掃活動で得られた海洋プラスチックごみの中から、リサイクル可能なものを分別し、連携先企業と再資源化・製品化を行い、清掃活動参加者への賞品に活用。将来的には連携先企業の商品として広く販売することを目指す。

## 成果と今後の展開

- 成果
  - 地元小学校(小浜小)でのモデル授業を実施
  - ギフト!との旅行企画を発売
  - ANAでの商品化を実現
  - みね屋工房(織物体験)でのサービス化を実現)
- 今後の展開
  - ギフト!との旅行企画の次年度継続
  - ANAやGOLDWINとの商品の企画・開発・拡充(モノと体験)
  - 町内の他島での展開と地元企業との商品開発・販売

